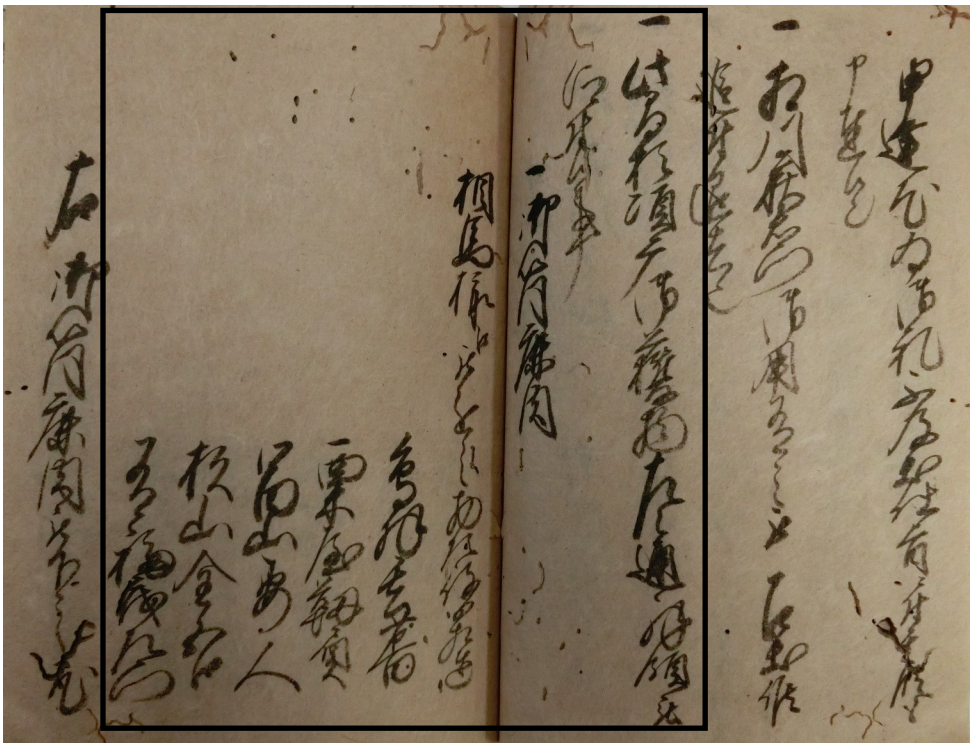

「御居間日記」　安永9年11月９日条（徳山毛利家文庫「御居間日記」309）

➤20

たのしむ 1

大名と狩～藩主のたのしみ～

《藩主、外へ》

参勤交代で国元に到着した藩主は、どのような生活をしていたのでしょうか。藩主として領国の政務を見、藩士の文武精錬の様子を確認し、自らも勉学に励んで教養を身に着ける毎日でした。加えて、祖先の墓参や、時には来藩者との面会など、日々忙しい時間を過ごしています。

そうした中、藩主は領内外で狩を行うことがありました。日々の喧騒から離れ、建物の外へ出、自然の中に分け入る狩は、藩主にとって、息抜きのできるひとときだったと想像されます。

徳山藩第7代藩主毛利就馴(なりよし・たかよし・なりより)の事例から、藩主が行う狩の様子を垣間見ましょう。

《「御狩」実施につき》

ここからは、安永9年(1780)に就馴が領内の須万(現周南市)で行った狩を「須磨村御踏出御狩記」（徳山毛利家文庫「御猟御行歩御供触記」14）で追ってみることにしましょう。

10月23日、須万方面にて狩を行うことが公表されました。実施にあたり、随行者名、持ち物、随行者の宿割りなどが示されます。

その随行には家老である粟屋靱負、御居間都合役の有福茂左衛門などそうそうたるメンバーのほか、医師や茶道（茶事に携わる家臣）も加わっています。

また、猟頭の澄田巻右衛門と山本与右衛門などは3日前に現地入りしています。その任務は、獲物の状況確認といったところでしょうか。

この狩には勢子が350人動員されています。内訳は現地須万村から200人、大向村から100人、大通村から50人といった具合です。須万村の人数が確保できない場合には、他の2村から出すようにとの指示も出ています。

徳山毛利家文庫
「御猟御行歩御供触記」

徳山毛利家文庫「御供触記」(全15点）は、藩主の狩猟に関する記録をまとめたシリーズです。寛保3年(1743)から天保6年(1835)までのもの(欠失あり)です。内容は藩主狩猟に関する触の発令記事の抜書と、狩猟に関わる日記の2種類に大別できます。

《「御狩」はじまる》

11月4日、いよいよ就馴は徳山を出発、須万へ向かいます。五時(8時頃)に出発、途中の杉ヶ垰と仏坂で休息した後、七時過(16時頃)に須万へ到着しました。

翌5日、天気は曇り、9時から「三獄山(金峰山)」にて狩がはじまりました。もっともこの日は途中から雨に見舞われ下山しています。そのためでしょうか、特に成果の記述はありません。

6日は休息日。7日は「田原山」で狩を行いました。この日は七時(4時頃)から五時(20時頃)まで実施、天気にも恵まれ、存分に狩を楽しんだようです。狩の成果は、就馴みずから鉄炮で鹿を2頭仕留めたのに加え、家臣らの分もあわせて総計8頭の鹿（女鹿含む）、2羽の兎を得ています。

楽しい時間は過ぎるのが早いもので、8日には徳山に帰館しました。なお、翌9日は獲物である鹿の肉が家臣に下賜されています(文書の写真は表、翻刻は下を参照）。

《このほかにも…》

数日にわたる大掛かりな狩以外に、日帰りであったり、ごく短時間で徳山の館近辺で行われるものもありました。「運動」と「気分転換」を兼ねたことであったと思われます。

左の表は、前出の須万での狩を含む、安永9年から10年の間に、寺社参詣以外に藩主が外出した記事を一覧化したものです。就馴は、安永9年5月22日に徳山に帰着、翌10年2月28日に江戸へ出立する間の9ヶ月、須万での狩を除くと50回出かけた計算です。

月日	場所	目的	備考（獲物など）
5月26日	開作	行歩	
6月2日	開作	行歩	
6月6日	開作	行歩	
6月9日	仙島	御出	鴈2、鹿2、鹿子1
6月23日	江口開作	行歩	
7月17日	江口・福川沖	御出	鱸・鰤
9月4日	大島山	御狩	鹿5
9月7日	富田上村	御猟	獲物なし
9月16日	莇地	御狩	鹿1
9月18日	開作	行歩	青鷺1、白鷺2
9月23日	開作	行歩	鴨1、鷺2
9月24日	開作	行歩	青鷺2、白鷺2、小鴨1、鰤多数
9月27日	大島塘	御出	獲物なし
10月2日	譲羽塘	御出	獲物なし
10月3日	開作	行歩	獲物なし
10月5日	大島山塘	御出	雉子4
10月7日	開作	行歩	獲物なし
10月9日	大島	行歩	雉1
10月10日	譲羽塘	御出	雉1
10月15日	大島山塘	御出	
10月17日	大島山	御猟	鹿11、兎1
10月18日	開作	行歩	鵜1
10月24日	中山川曲	御猟	猪1
10月27日	開作	御猟	鶴の目撃情報
11月2日	新開作	行歩	鴨1
11月4日～8日	須万	御猟	鹿8、兎2
11月10日	中山	御猟	猪1、狸1
11月12日	開作	行歩	
11月16日	遠石	行歩	
11月18日	開作	行歩	
11月23日	譲羽	御猟	
11月24日	新開作	御行歩	秋沙2、白鷺2
11月27日	開作	行歩	鴨1
12月3日	新開作	行歩	白鷺6
12月5日	大島山	御猟	鹿11、兎1
12月9日	開作	行歩	
12月10日	大河内	行歩	
12月23日	川曲	御狩	猪1、狸1
12月25日	開作	行歩	
1月13日	開作	行歩	白鷺1、鳩1
1月26日	開作	行歩	鴈2
1月27日	仙島	御猟	鹿15
2月1日	開作	行歩	
2月5日	中山	御狩	猪3
2月7日	須々万山	御狩	鹿20疋
2月9日	河内	御狩	
2月12日	開作	行歩	鴨3
2月17日	開作	御出	鷹1？
2月23日	中山	行歩	猪1、鳩1、狸1
2月25日	大島山	御猟	

一、此間於須磨御獲物、左之通拝領被
仰付候事、
一、御筒鹿肉
相馬様江被進之、物頭役ゟ相達、
鳥羽玄蕃
粟屋靱負
冨山要人
杣山金吾
有福茂左衛門

↑表面写真の翻刻。須万での獲物である鹿肉を「相馬様」（就馴の弟）をはじめ、藩士に配分しています。この時に肉を配分された者は「相馬様」を含めて73名にのぼりました。

←安永9年～10年にかけて行われた狩の記録

（徳山毛利家文庫「御居間日記」「記録所日記」より作成）